

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>従来の理念に「仲良く地域と支えあい」をプラスして地域との連携を図るために、地域の行事に参加して交流を深めるようにしている。</p>	<p>グループホームがどんなところか、認知症がどうゆうなものか、地域の人にもっと理解してもらえるように働きかける。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>みろくの里の理念を園内に掲示し、朝礼・申し送り時に、職員全員で理念の唱和している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>現在は特になし</p>	<p>運営推進会議の中や、新聞「みろくだより」等の中で理解してもらえようように広報していく。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>朝の外気欲や散歩時に近隣の方との挨拶を交わし顔見知りになっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>秋祭りや盆踊り等、地域の行事に参加し、施設の催しに招待している。又、トライアルやボランティアの受け入れを進んで行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	地域の高齢者参加による、回想法を行っている。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	年に2度の人事考査による自己評価を行っている。	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	第1回実施につき、サービス向上に活かすところ までは現在いたっていない。	今後、会議での意見や助言をそのつど職員間で 話し合い、サービスの向上に努めていきたい。
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	グループホームの連絡会への参加	研修や講習会の参加に進んで参加を行ってい く。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	現在は必要な方は入所されていない。	今後、研修に取り入れていく。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	特に現在は行っていない	今後、園内研修に取り上げていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、ゆっくり全文読み上げ、細かい説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>そのつど傾聴し、状況の把握を行い職員間での話し合い、必要に応じて家族に説明を行う。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時には随時行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置もされているが個別に面会時等に聞かせていただいている。</p>	<p>運営推進会議にかけて、評価をおおぎ改善に生かしていく。みろくだより等に掲載する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>その時々話し合いの場を設け対応している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や必要に応じて柔軟なローテーションを組み対応している。夜間は職員1名である為、山彦ホームより応援にて対応ができる体制にある。</p>	<p>確実な申し送りと重要な事は職員で共有し申し送りノート等再確認を行うようにしていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	リスクを想定し、事前の対応を考える。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内外の研修や勉強会に出席したり他施設見学を勧める。 いろいろな資格習得を勧める		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や情報交換の場に進んで参加し他施設との交流をはかっていくことで質の向上に生かしている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス解消策として、年1回親睦会の機会を作っている。 他、随時、悩みやストレスのある職員に対しては個別にて聴取する時間を設けている。		勤務調整を行う中、できるだけ多く、職場外での食事会やレクリエーション等を設けていけるようにしていく。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議時、意見交換を行うことで検討している。		職員個々が気づきを細かく書き上げることで確認に早期の改善を行う(気づきノートの設置)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から聴き取りができない時は家族と交えて話し、できるだけ本人の希望とする事を把握する。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会の都度、声かけし、話を傾聴し気らかに話しができるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の中において、状況の把握できる限り情報を提供を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族さんとの相談で理解が得られれば、様子を見つつ、馴れるまで家族の人に少し手伝っていただいている。(電話をかけていただいたり、できる限り多めの面会の依頼等)</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意とすることがあれば、手伝っていただいたり、利用者へ声かけしたり、ゆっくり話をする時間をとっている。</p>	<p>職員と共にできるレクリエーションを月に1回か2回とってみる。もっと利用者さんと話をする時間をとる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	できる限り、面会時、声をかけ状態を説明するだけでなく、家族さんの話を聞く。		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の少ない人には面会依頼の連絡をしたり、施設の行事に参加されるように案内状を送っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が、希望される所は家族に連絡したり、可能な限り対応している。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	随時職員が間に入って調節している。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも、連絡してもよいことを説明し、情報を提供できるようにしておく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人の意向がわからない場合は家族と共に面接を行いあるいは、家族の意向を重視し、本人に一番よいと思われる方向性を探っている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者個々の生活習慣や趣味などを全職員が把握し、施設側ができるだけ受け入れ守っていただける体制を整えている。又、なじみのある品物が持ち込めるよう配慮している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活のリズムを把握すると共に心身・心体状況を観察している。</p>	<p>KOMI記録システムのKOMIチャートを利用して、現在している機能やこれからどうなっていくかを把握するために生活面、行動面に分けて細かく分析していく。</p>
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人に何ができるかを検討し本人のできることを中心に家族さんの意向をふまえながら、職員ができることを短期の目標においてプランを立てている。</p>	<p>現状を把握するために、今の1人ひとりの状態を分析し、KOMIチャートにおとして行く作業を職員みんなで実行計画をする前から職員は関わって行くようにする。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>全職員が常にチェックを行ない随時の見直しを行っている。又、月1回のケアカンファレンスで取り上げた課題で検討している。</p>	<p>現状の分析の後、何がどれだけ現在しているか今後、どうなるか見きわめ、そうならないようなプランを加える。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	利用者個々に個別ケースの記録を作成し、状態変化時等具体的に記録している。又、月1度のケアカンファレンスや介護計画の見直し時に参考にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	単独でのグループホームであるため、多機能性を活かした支援はできないが、母体となる特養の行事や教室に参加している。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	特にボランティアの援助は大で、外出行事や各教室での見守りや付添いには、職員と協力している。又、自治会の消防や学校との連携をとりつつトライアルの受け入れをしている		隣にある保育園の園児はかわいく、誕生会だけでなく、普段の日々にも遊びに来てもらうようにする。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	現在のところ、他のサービスを利用するための支援はしていない。		今後介護保険を使わずに趣味などの活かせる機会や包括支援センターや在介のケアマネから情報を得るようにする。
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	今のところ協働していない。		4月より、母体となる特養に地域包括支援センターが設置されたので、情報の提供を受ける事ができるように働きかける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		今後よく医療機関や職員間で話し合い検討していく課題である。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>随時話し合いの場を持つようにしているが、家族の希望で十分話し合えない状態である。</p>		<p>家族との話し合いの場を持ち状況を説明し、リスクをふまえ双方で検討する。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入所時、新聞やインターネットに名前や顔が載ってもいいかどうか確認し、職員は配慮している。言葉に関しても利用者の気分を害さないような言葉遣いをするように指導している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者も年月がたつと重度化し、自己決定が困難であるが、できるだけ本人に説明し家族の協力を得て不快のない生活が送れるように支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間や入浴の時間は決まっているが、その他行事のない時にはできる限り本人の訴えを傾聴し支援している。</p>		<p>もっと利用者本人の希望や訴えが何か把握し、必要があれば家族に相談する。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>以前利用されていた美容院へ本人の希望にて現在も利用されている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が和気あいあいと食事を取ると共に、食べこぼしや服薬などを注意して見守るよう配慮している。		
55 利用者の嗜好の支援  利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーの好きな方には随時希望時に提供している。献立には食べたい物の希望を聞き献立に取り入れている。		
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々に毎日排泄チェックを行い記録することで、排泄間隔の把握に努め、それを排泄自立への取り組みに使用している。		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入浴日は決めている。		夏季には夕方や夜の訴えがあれば、シャワー等に対応する。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に良眠していただく為、日中は余暇活動などの提供により生活のリズムを作り、昼夜逆転にならないように援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や残存能力を把握した上での作業(調理・洗濯・花の水やり・掃除)や、本人の希望時には散歩やコーヒーなどの提供を随時できるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が金銭を少しでも管理したいとの希望時には、可能な限り希望を聞き入れ、家族と相談の上できるだけ問題の発生が起らないように支援する体制にはある。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を可能な限り実現できるよう支援している。(買い物・散歩・外食・ホーム誕生会の参加・樹の里喫茶など)		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望と家族との相談のもと計画を作成し実行している。(外食・祭り・バラ園・好古園・花見など)		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話や手紙などの支援が必要な状態の方はおられないが、必要時には利用者の認知の程度や、プライバシーに配慮し対応する事ができる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は随時気軽に訪問できるような家庭的な環境づくりに気を配っている。又希望時には、居室に泊まっていただけるように簡易ベッドの用意がある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全職員が正しい認識をしており、日々のケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、出入りにセンサーを設置し人の出入りをキャッチできるようにしている。また建物周囲にはあえて厳重な柵や壁の仕切りを作っておらず、開放的なイメージを生み出すよう工夫している。万が一利用者の徘徊が発生したときの対策として、近隣の住民の方々に協力を仰ぎ発見時には通報していただける体制を整えている。		
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の巡回記録や、日中行動記録表の利用にて安全の確保に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	投薬管理をはじめ、台所や洗面所にも、危険物は夜間は片付けている。居室内においては、個々に合わせて家族とその都度相談し対応している。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員がマニュアルなどで知識を熟知し、行動に落ち着きのない方には行動記録表のチェックやヒヤリハットの作成により事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の手当での仕方に関しては、各自勉強会へ参加しており対応ができるようにしている。		現在は定期的には行っていないため、定期的に課題を決めて勉強会を行っていきたい。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては全室スプリンクラーの設置も完備されており、対応マニュアルや消防訓練にて全職員が理解している。消防訓練時には地域の方も参加され行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族にはリスクの説明は随時行っている他職員間でも話し合いの場を持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	血圧の異常や変化のある方は毎日1日3回のバイタルチェックの記録を行うと共に体重測定や検温を行い、異常時には医師に報告し指示を受け早期の対応を行っている。		
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が各薬に関する説明を医師や看護師より受けており、利用者一人ひとりが医師の指示通り服薬できるように援助している。		
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動の働きかけ以外にも、水分量の確保、食事提供の工夫や医師との相談により定期的に緩下剤の投与などにより便秘予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	可能な限り自力で行ってもらい、随時職員がチェックするように配慮している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表に主食、副食量の摂取量を記入している。医師の指示のある方には水分チェックを行っている。また水分はチェックはしていないがこまめに水分補給を行っている。		1日の水分量を現在の湯のみを活かした上で測定し記録するように検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する予防や対応に関するマニュアルを作成を行っており、それに沿って実行している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器類の消毒には徹底している。魚は鮮魚店より配達してもらい新鮮なものを、野菜は家庭菜園での無農薬野菜を使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲・玄関周りに草花を配置するほか、普段から近隣住民と職員、利用者が挨拶を交わすなど地域にとって親しみやすい環境づくりを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木材を随所に取り入れた作りになっており、温かみのある家庭的な雰囲気をかもし出している。また四季折々の絵画や置物、花などを適所に配置するよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室また利用者同士で自由に過ごせるように共用スペースを確保し、適所にソファやイスを配置し自由に過ごせるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を個々に持ち込んでもらい、落ち着いて安心した生活ができるような環境づくりに励んでいる。		
84 換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に冷暖房機完備。室温調節や換気は職員が行い、主に夏・冬の気温の調節配慮するように心がけている。冬季には乾燥予防対策として加湿器を設置して対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりをつけ、建物内はバリアフリーになっていて、押車や杖使用でも歩きやすくなっている。		
86 わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	座席に大きく名前を書いた紙を貼ったり、居室前に表札をつけている。		
87 建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲に植木を植え、水まきや草取りを職員と一緒に行っていただいている。またボランティアの方と菜園の収穫などを行っている。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)